

PTAだより

第50号

●平成29年12月発行

●愛媛県立南宇和高等学校PTA

いつまでも人生のアドバイザー



PTA会長
吉田幸稔

二〇一七年も残りわずかとなりました。今年度は、愛媛県高等学校PTA連合会総会の流会などもあり混乱の幕開けでしたが、何とか新役員も決まり平穩に事業も流れ始めました。保護者の皆様には大変ご心配をおかけしましたが、本校での体育祭や文化祭など、本校のPTA活動にご理解・ご協力をいただき、心から感謝しています。至らない点もあるかと思いますが、今後ともよろしく願います。

さて、三年生においては、受験や就職と進路が決まる大事な時期になっています。先日私は、一年生の進路説明会に参加し、そこで、これから何をどこで勉強したいのか、どんな職業につきたいのか、しっかりと具体的な目標を立てていくことが大切であること。子供たちが就職や進学の中で置かれた状況など、進路について沢山のことを教わることができました。恥ずかしながら私は、この南宇和高校で進路を決めずに卒業してしまいました。いろいろ迷ったのと、どうにかなるんじゃないかなど、簡単に考えていたからです。子供だけで、自分の進路を決めることは難しいことだと思いますが、私たちが大学入試や就職の状況など何も知らなければ、子

母からの手紙



校長
澤山陽一

高校PTAは、長いPTA活動の最終章ですが、卒業後も、子供たちにとっての人生のアドバイザーとなるよう、これからもいろいろのことを学んでいきたいと思っています。

先日、卒業証書や教員免許状など重要なものを入れた箱の中から、古い手紙が出てきた。消印は昭和六十年三月十九日。大学の卒業式の前日である。文字のインクがにじみ、紙が変色していたが、懐かしい母の字である。そういえば、数年前に亡くなった母のこ

とを最近あまり思い出さなくなっていた。しかし、手紙を読み進めるうちに、未っ子の私のことをいつも気にかけていた母の顔や言葉とともに、学生時代に住んでいたアパートの部屋や当時の自分の気持ちなどがどんどんよみがえり、私の心は思い出で溢れそうになった。当時の私はいえ、中学校の理科の教員を目指したものの、採用試験に不合格となり途方に暮れていた。しかし、これではいけないと自分を見つめ直し、妥協ではない本当の自分の夢をかなえるために大学院を受験し、何とか合格していったときだった。手紙の内容は、「庭の椿の花も満開になりました。其後、元気な様子何よりのことと思います。先ずは、おめでとうございませう。今年ストレートに教師になるより、ずっと夢が大きくなりましたね。アルバイトもよいけれど、今はもっと大きな夢につながる暮らし方を。自分の生き方を常に念頭において行動をおこして下さい。なるべく早く顔を覚えて下さい。(原文のまま)」というものであった。今は、ラインやメールの時代である。とてもスピーディーで便利で、特に手紙を書く必要などないかも知れない。しかし、自筆の文字の温かさ、便せんやインクの匂いなど手紙だからこそ感じられる趣(おもむき)を久々に実感した出来事だった。さあ、誰かに手紙を書いてみようか。もしかしら、何年か後に、その人が私のことを懐かしく思い出してくれるかもしれないという淡い期待を抱いて。

10月28日(土) 文化祭 テーマ「NEXT STAGE 110周年栄光のその先へ」

今年PTAでは、カレーライスと焼きそばを販売し、どちらも大好評でした!!



↑農業科の販売コーナーも盛況でした!

↑1年生が総合学習で取り組んだ「愛南町の魅力の展示」も好評でした!

3学期の行事予定

1月9日(火) / 始業式	1月25日(木)~31日(水) / 学年末考査(3年)
2月1日(木) / マラソン大会	2月22日(木)~28日(水) / 学年末考査(1,2年)
3月1日(木) / 卒業式	3月20日(火) / 終業式



土居 佑也
(2年2組)

**(第72回国民体育大会 愛顔つなぐえひめ国体
(相撲競技 少年男子団体第5位))**

私は全国大会で勝つために、体を大きくしようと決意しました。そのためには、食事の量を増やさなければなりません。何もしなければ体重は増やしやすいですが、厳しい稽古を積み重ねながら体重を増やすことは、簡単ではありませんでした。さらに、量だけを増やせば良いだけではありません。肉や油ものなどを多く食べすぎると体調を崩してしまうので、バランス良く食べるよう、両親からアドバイスを受けました。そのおかげで体も大きくなり、万全の体調で試合に臨むことができました。いつも支えてくれる家族に感謝しています。



山下 亨也
(3年4組)

(平成29年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会 (5000mW))

私は昨年から専門の指導者がおらず、それを練習量でカバーするために日々の練習に取り組みました。疲労がたまると、両親が健康面を考えた食事やリラックスできる環境を作ってくれたおかげで、毎日万全な状態で練習に取り組むことができました。今まで支えてくれた家族に、全国の大舞台で歩く姿を見せられたことが、少しでも恩返しになればいいなと思っています。私に「競歩」をさせてくれ、共に歩き「共歩」してくれた両親に感謝しています。



清水 鼓哲
(2年3組)

(平成29年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会)

家族には、いつも感謝しています。今回のインターハイも、宮城県まで応援に来てくれました。今回に限らず、私が出場する大会は、ほとんど応援に来てくれます。また応援だけでなく、普段の食事や送り迎えなど、様々な面で支えてもらっています。弟は水泳だけではなく、多方面で活躍しています。その姿を見て、私も負けられないと思って厳しい練習に取り組んでいます。

これからも家族のありがたさに感謝し、さらに上を目指して頑張りたいと思ったインターハイでした。



丸山 優月
(3年4組)

(第41回全国高等学校総合文化祭 (文芸部門・詩))

文芸作品を評価していただく機会は少ないため、私にとって年に一度の高等学校総合文化祭への作品の提出は、大変貴重な機会でした。全国総文祭へ出場できるとは思っていなかったため、出場が決まった瞬間は非常に驚きましたが、創作に親しむ同世代の人々と出会えたことに感謝しています。これまで一人で黙々と行っていた創作を大勢と楽しめたことは、大切な思い出となりました。高校生活で予想外に大きな経験をすることができ、大変嬉しく思っています。

愛南から全国、そして世界へ

今年、様々な分野で全国大会に出場して活躍した皆さんに、全国大会に参加した感想や普段から一番近くで支えてくれている家族との思い出などについて書いていただきました。



中道 穂香
(2年4組)

**(第17回全国障害者スポーツ大会愛顔つなぐえひめ大会
(女子障害区分 07 50m自由形1位 50m背泳ぎ1位)
第34回日本障がい者水泳選手権大会
(女子 S9 400m自由形1位 100m背泳ぎ1位)
IPC Swimming 公認 2017 ジャパンパラ水泳競技大会
(女子 S9 400m自由形1位 100m背泳ぎ3位))**

地元・愛媛で行われた愛顔つなぐえひめ大会に出場しました。松山中央運動公園にあるアクアパレットまつやまで競技が行われたので、両親や両祖母、伯父などがかけつけてくれました。また、本校の校長先生をはじめ、多くの先生方や小学校でお世話になった先生、水泳を通して知り合った方々など、多くの方が応援に来てくださり、その声援の中で泳ぐことができたことは一生忘れることのできない思い出となりました。出発前に「頑張れ」と声を掛けてくださった方もいて、非常に嬉しかったです。たくさんの方の応援、ありがとうございました。

☆中道さんは12月10日から4日間、アラブ首長国連邦(UAE)のドバイで開かれた「アジアユースパラ競技大会」の日本代表選手に出場しました。
この大会はアジア地域の各国から選ばれた14歳から19歳までの選手が出場し、2020年に行われる東京パラリンピックへつながる非常に重要な国際大会です。



佐々木 剣心
(3年1組)

**(第72回国民体育大会 愛顔つなぐえひめ国体
(相撲競技 少年男子団体第5位)
平成29年度全国高等学校総合体育大会相撲競技大会
(優秀32選手決勝トーナメント進出))**

私はえひめ国体の記憶があまりありません。それは、今までのことを思い出していたからです。私は中学入学と同時に親元を離れて愛南町にやってきました。親代わりとなって世話をしてくださった人や毎日食事を作ってくださっている人、兄弟のように一緒に生活をした二人の先輩、時に厳しく、時に温かく、親のように接してくださった先生方、そしてどんなときも背中を押してくれた家族。そんなことを考えて試合に臨みました。たった6年間という短い時間でしたが、私の人生において最も大切で、密度の濃い時間を過ごさせていただきました。この出会い、経験、思い出を一生大切にします。



9月2日(土) 第70回 体育祭
 「輝け 世界の中心 ここ南高」

